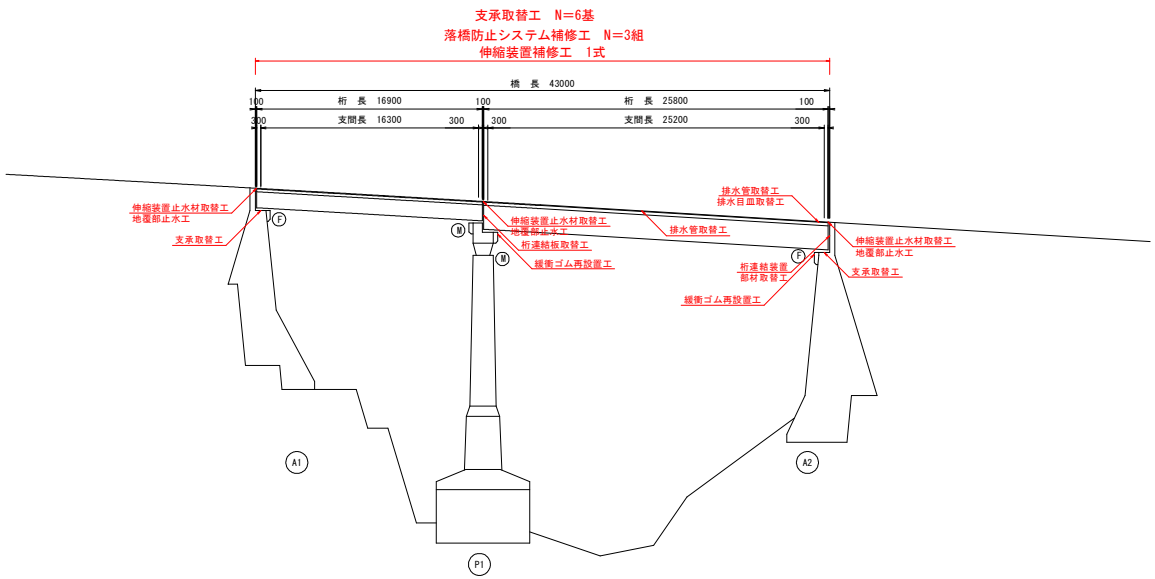
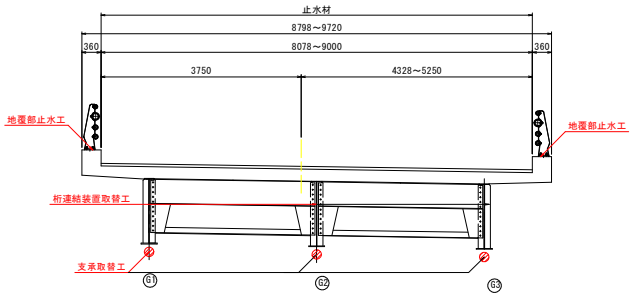
補修計画一般図
【補修設計】

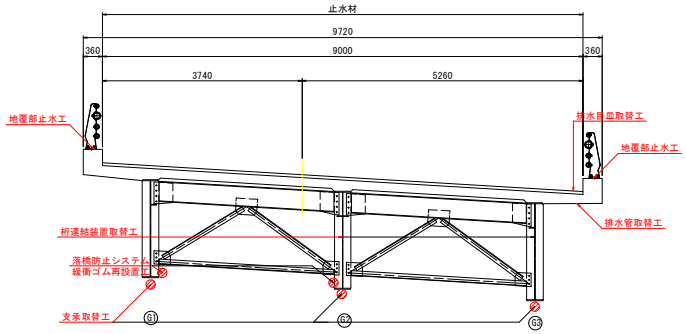
側　面　図 S=1:200



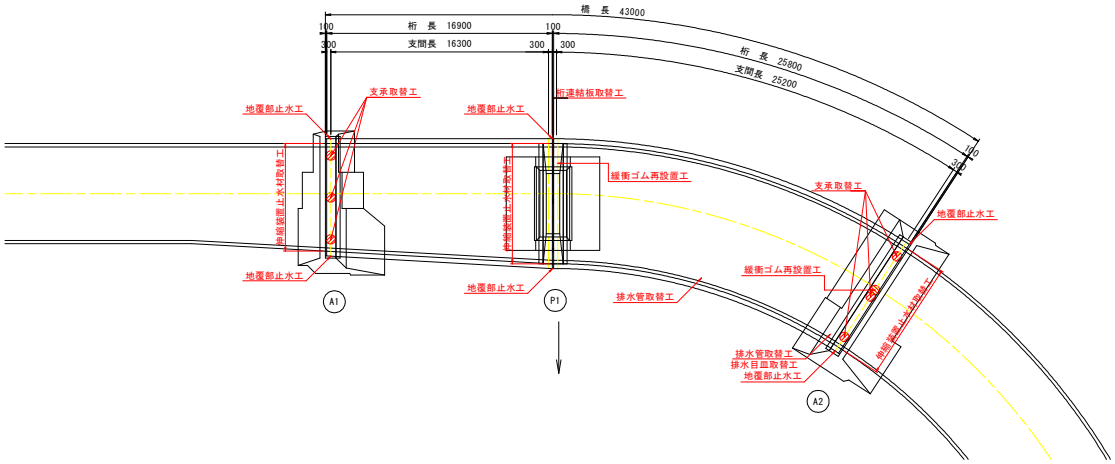
標準断面図 S=1:50
第1径間（支点部）



第2径間（支点部）



平　面　図 S=1:200



橋梁諸元				
橋　　名	蔵谷橋			
路　線　名	県道5号（主要地方道）　観音寺池田線			
架 橋 年 次	1966年			
交 差 条 件	河川：無名			
橋　　長	43.000m			
桁　　長	16.900m ＋ 25.800m			
支　間　長	16.300m ＋ 25.200m			
幅　　員	全幅員	9.720m（最大）	有効幅員	9.000m（最大）
上部工形式	単純非合成鈑桁橋，単純合成鈑桁橋			
下部工形式	下部工	重力式橋台2基，T型橋脚（RC）		
	基礎工	直接基礎		
適用示方書	昭和31年　鋼道路橋設計示方書			

付属物工	対象部材	対策箇所	対策工法	仕様・種別
	支承	A1-A2橋台部	支承取替工	全て固定支承
	伸縮装置	伸縮装置全箇所	伸縮装置止水材取替工	
	地覆	下部工位置全箇所	地覆部止水工	
	落橋防止システム	P1橋脚部　桁連結板	桁連結板取替工	
		A2橋台部（G3，G2主桁）桁連結装置	桁連結装置取替工 部材取替工	
		P1橋脚部（G1主桁）-A2橋台部（G2主桁）変位制限装置	緩衝ゴム再設置工	
	排水装置	第2径間：中間部，A2橋台部	排水管取替工	VP100
		第2径間：A2橋台部	排水目皿取替工	FC250

注記
1. 施工前には事前に塗膜調査を実施すること。
2. 塗替時における素地調整方法としては、塗膜剥離剤を用いる必要がある。
　また、作業員の安全対策として、化学防護服や呼吸用保護具の着用等を行う必要がある。

実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線（蔵谷橋） 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	（主）観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津（蔵谷橋）		
図面名	補修計画一般図【補修設計】		
縮尺	図示	図面番号	1 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

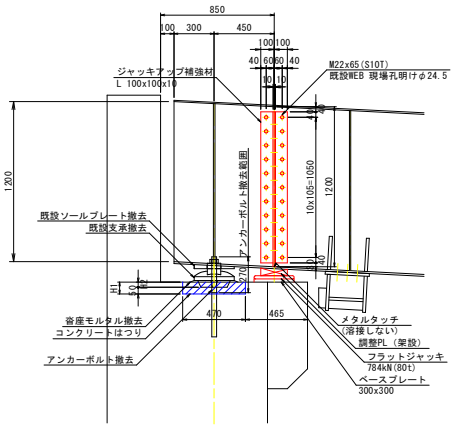
支承補修計画図(1)

【支承取替工（A1橋台支承取替計画）】

支承取替計画 S=1:20

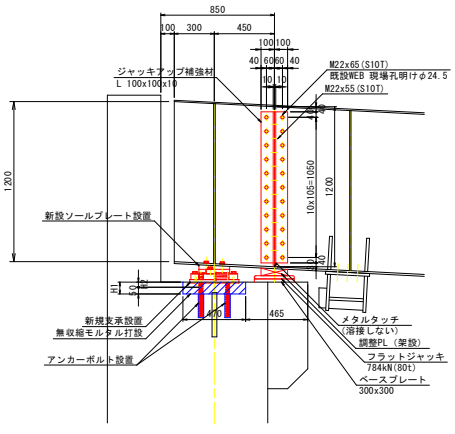
〈補強材取付・既設支承撤去時〉

側面図



〈新規支承設置時〉

側面図



【寸法表】 単位：mm

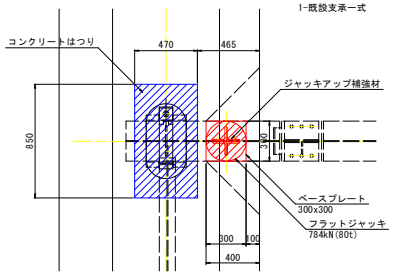
	H1	H2	H3	H4	t1	t2
G1桁	90	40	180	170	28	34
G2桁	95	45	181	171	29	36
G3桁	93	43	182	172	30	39

【反力表】 単位：kN

	反力
G1桁	550
G2桁	540
G3桁	560

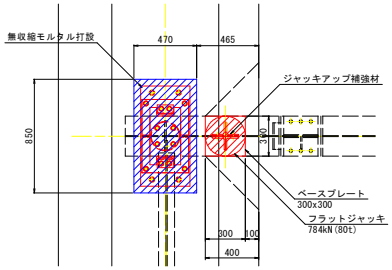
※（死荷重反力+活荷重反力）に対して、ジャッキアップ時の不均衡力を考慮して20%を割増しした値を示す。

平面図

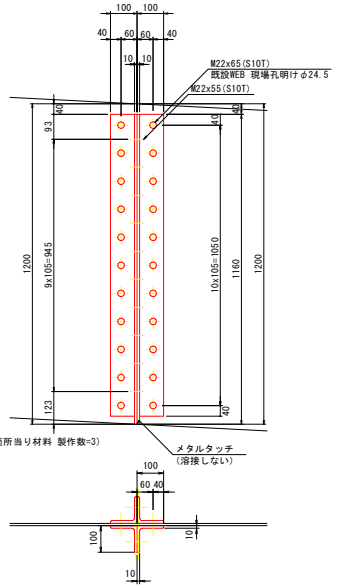


(既設支承 1箇所当り撤去材料 撤去数=3)
1-SOLE PL 300x22x353(SS41)
1-ANC BOLT φ36x270(SS41)
1-NUT M36(1種)(SS41)
1-既設支承一式

平面図



ジャッキアップ補強材詳細 S=1:10

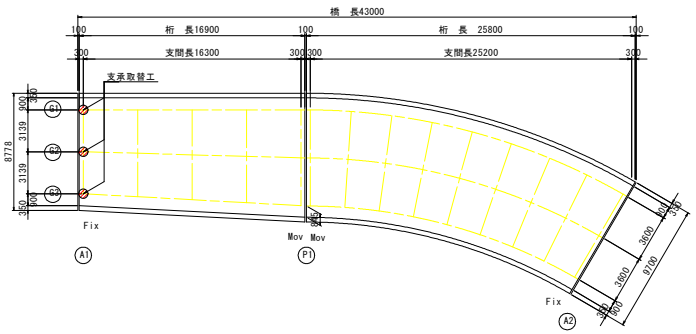


(ジャッキアップ補強材 1箇所当り材料 製作数=3)
4-L 100x100x10x1160
22-TCB M22x65(S10T)
20-TCB M22x55(S10T)

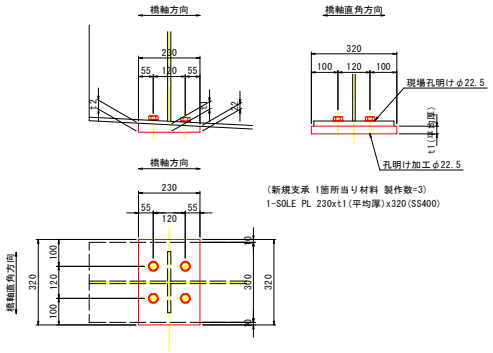
A1橋台支承取替 施工手順

補修用足場設置
↓
近接調査計測
↓
鉄筋探査工（はつり調査）
↓
支承製作 (注1)
↓
補強材の製作・孔明、取付け
↓
補修用油圧ジャッキ設置・反力盛替え
↓
沓座コンクリートはつり
↓
既設支承、ソールプレート撤去
↓
アンカーボルト切断
↓
ソールプレート取付け
↓
新設アンカーボルト削孔 (注2)
↓
ベースプレート仮置き
↓
支承本体据付け
↓
新設アンカーボルト設置・定着
↓
無収縮モルタル打設
↓
養　生
↓
ジャッキダウン
↓
補修用油圧ジャッキ撤去
↓
現場補修塗装
↓
補修用足場撤去

配 置 図

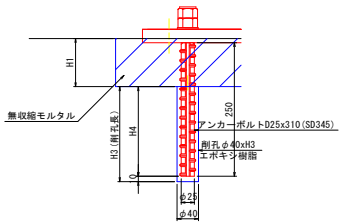


ソールプレート詳細 S=1:10



(新規支承 1箇所当り材料 製作数=3)
1-SOLE PL 230x11(平均厚)x320(SS400)

アンカー削孔部詳細 S=1:5



注記)
1. 支承製作前に桁受け面の鉄筋探査を行い、監督員立ち会いのもとアンカーボルト位置を確定すること。なお、鉄筋探査により鉄筋位置が確定できない場合、必要に応じてはつり調査等を実施し、形状を確定すること。
2. アンカーボルトの削孔長は新設支承の設置高に合わせて調整すること。
3. 部材へのボルト孔は24.5φとする。
4. 補強方法及び寸法を変更するときは必要に応じて応力計算を行うこと。
5. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
6. 既設部材の材質は推定とする。

実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	支承補修計画図(1) 【支承取替工（A1橋台支承取替計画）】		
縮尺	図示	図面番号	2 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

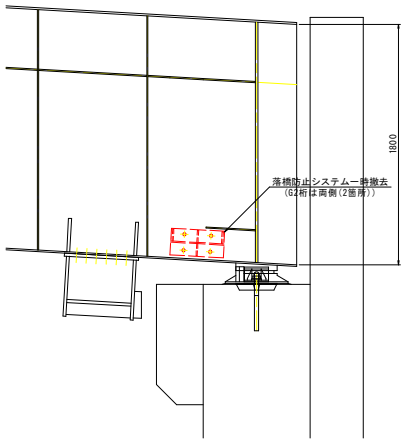
支承補修計画図(2)

【支承取替工（A2橋台支承取替計画その1）】

支承取替計画　S=1:20

〈落橋防止システム一時撤去時〉

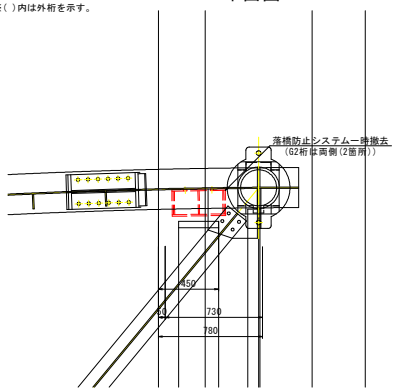
側面図



（落橋防止システム 1箇所当り一時撤去材料 撤去数=4）
1-H 200x200x8x12x400（一時撤去）
4-Rib PL 90x9x176（一時撤去）
4-HTB M22x75(F10T)
(65)

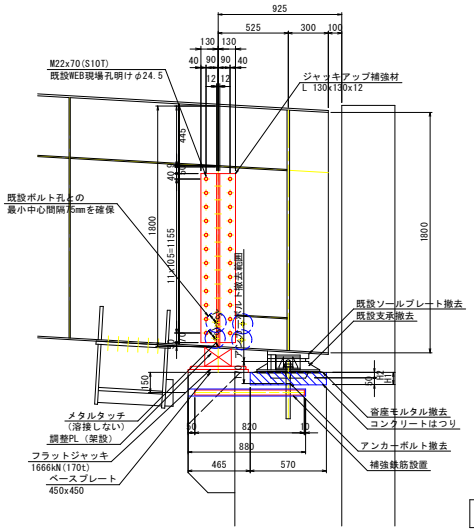
※( )内は外桁を示す。

平面図



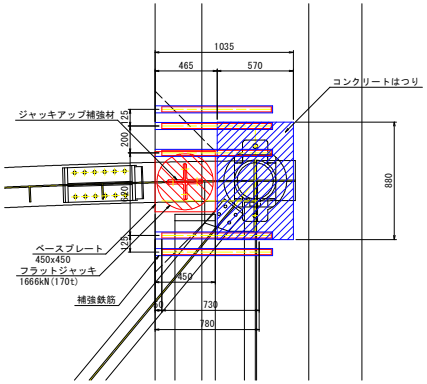
〈補強材取付・既設支承撤去時〉

側面図



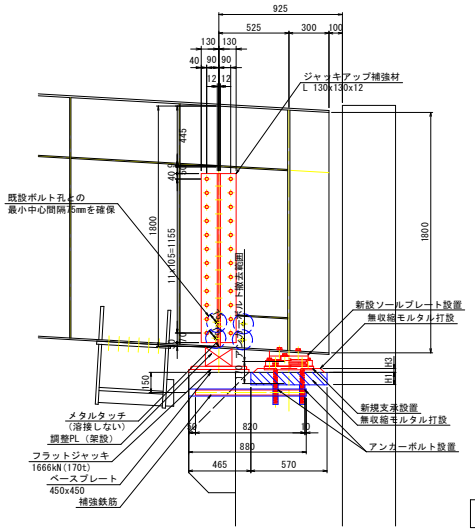
（既設支承 1箇所当り撤去材料 撤去数=3）
1-SOLE PL 380x50x310(SS41)
2-ANC BOLT φ32x170(SS41)
2-NUT M32(1種)(SS41)
1-既設支承一式

平面図

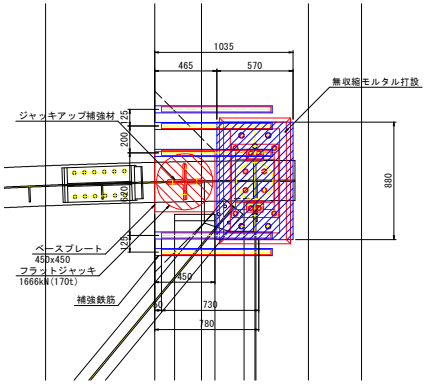


〈新規支承設置時〉

側面図

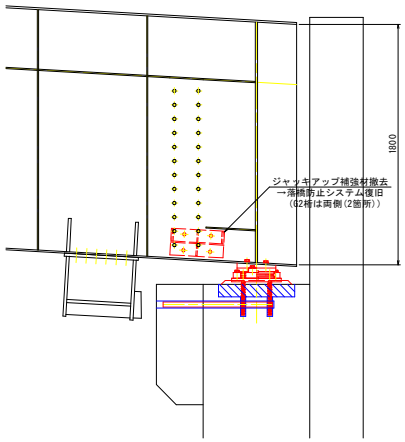


平面図



〈補強材撤去・落橋防止システム復旧時〉

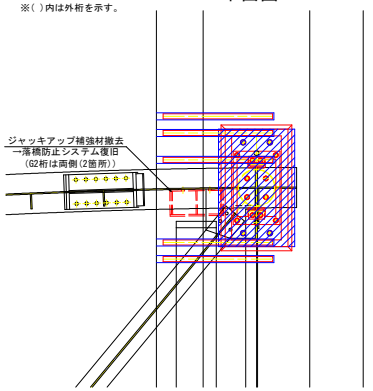
側面図



（落橋防止システム 1箇所当り材料 復旧数=4）
1-H 200x200x8x12x400（再利用）
4-Rib PL 90x9x176（再利用）
4-HTB M22x70(F10T)
(65)

※( )内は外桁を示す。

平面図



【反力表】　単位：kN

	反力
G1桁	1190
G2桁	700
G3桁	530

※（死荷重反力+活荷重反力）に対して、ジャッキアップ時の不均衡力を考慮して20%を割増しした値を示す。

【寸法表】　単位：mm

	H1	H2	H3	L1	L2	L3	L4	L5	t1
G1桁	92	42	29	29	528	938	290	75	39
G2桁	88	38	33	33	536	946	290	75	39
G3桁	94	44	27	27	524	934	260	60	37

注記）
1. 支承製作前に桁受け面の鉄筋探査を行い、監督員立ち会いのもとアンカーボルト位置を確定すること。
　なお、鉄筋探査により鉄筋位置が確定できない場合、必要に応じてはつり調査等を実施し、形状を確定すること。
2. アンカーボルトの削孔長は新設支承の設置高に合わせて調整すること。
3. 部材へのボルト孔は24.5φとする。
4. 補強方法及びﾘﾀｲﾄを変更するときは必要に応じて応力計算を行うこと。
5. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
6. 補強材取付の際には、既設ボルト孔(落橋防止システム)との最小中心間隔75mm以上を確保すること。
7. 既設部材の材質は推定とする。

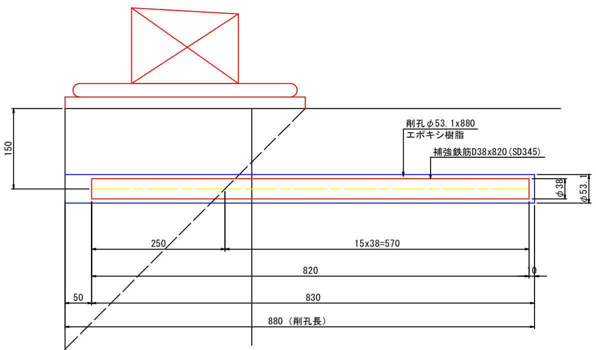
実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	支承補修計画図(2) 【支承取替工（A2橋台支承取替計画その1）】		
縮尺	1:20	図面番号	3 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

支承補修計画図(3)

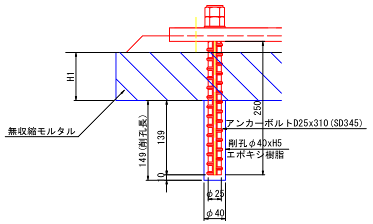
【支承取替工（A2橋台支承取替計画その2）】

補強鉄筋詳細 S=1:5

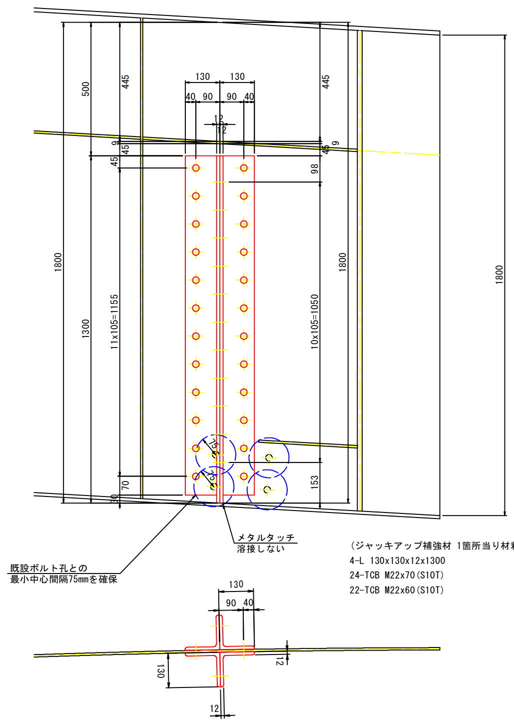


（補強鉄筋 1箇所当り材料 施工数=3）
5-ANC BOLT D38x820(SD345)
※補強鉄筋用削孔を行う前に鉄筋探査を行うこと

アンカー削孔部詳細 S=1:5



ジャッキアップ補強材詳細 S=1:10



（ジャッキアップ補強材 1箇所当り材料 製作数=3）
4-L 130x130x12x1300
24-TCB M22x70(S10T)
22-TCB M22x60(S10T)

A2橋台支承取替 施工手順

1. 補修用足場設置
2. 近接調査計測
3. 鉄筋探査工（はつり調査）
4. 注1) 支承製作
5. 落橋防止システム一時撤去
6. 補強材の製作-孔明、取付け
7. 補強鉄筋施工
8. 補修用油圧ジャッキ設置-反力盛替え
9. 沓座コンクリートはつり
10. 既設支承、ソールプレート撤去
11. アンカーボルト切断
12. ソールプレート取付け
13. 注2) 新設アンカーボルト削孔
14. ベースプレート仮置き
15. 支承本体据付け
16. 新設アンカーボルト設置-定着
17. 無収縮モルタル打設
18. 養　生
19. ジャッキダウン
20. 補修用油圧ジャッキ撤去
21. 補強材撤去
22. 落橋防止システム再設置
23. 現場補修塗装
24. 補修用足場撤去

【反力表】　単位：kN

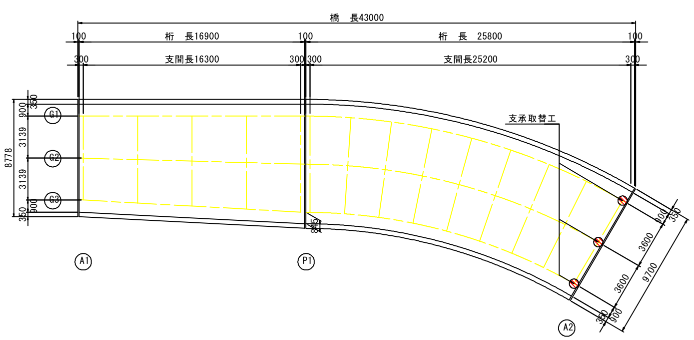
	反力
G1桁	1190
G2桁	700
G3桁	530

※（死荷重反力+活荷重反力）に対して、ジャッキアップ時の不均衡力を考慮して20%を割増しした値を示す。

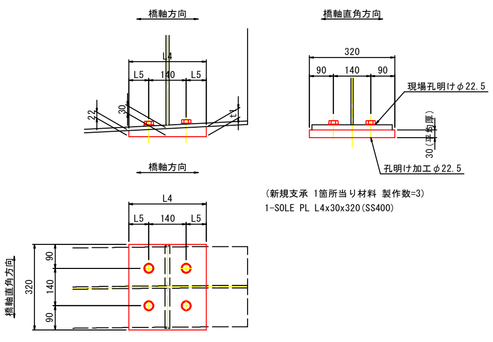
【寸法表】　単位：mm

	H1	H2	H3	L1	L2	L3	L4	L5	t1
G1桁	92	42	29	29	528	938	290	75	39
G2桁	88	38	33	33	536	946	290	75	39
G3桁	94	44	27	27	524	934	260	60	37

配置図

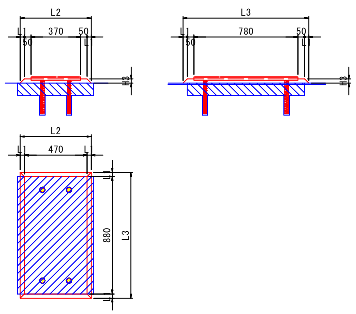


ソールプレート詳細 S=1:10



（新規支承 1箇所当り材料 製作数=3）
1-SOLE PL L4x30x320(SS400)

沓座モルタル詳細 S=1:20



注記）
1. 支承製作前に桁受け面の鉄筋探査を行い、監督員立ち会いのもとアンカーボルト位置を確定すること。なお、鉄筋探査により鉄筋位置が確定できない場合、必要に応じてはつり調査等を実施し、形状を確定すること。
2. アンカーボルトの削孔長は新設支承の設置高に合わせて調整すること。
3. 部材へのボルト孔は24.5φとする。
4. 補強方法及び寸法を変更するときは必要に応じて応力計算を行うこと。
5. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
6. 補強材取付の際には、既設ボルト孔(落橋防止システム)との最小中心間隔75mm以上を確保すること。
7. 既設部材の材質は推定とする。

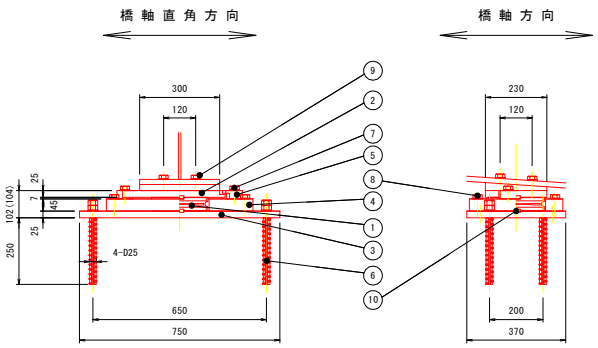
実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事
路線名等	(主)観音寺池田線
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)
図面名	支承補修計画図(3) 【支承取替工（A2橋台支承取替計画その2）】
縮尺	図示
図面番号	4 / 13
会社名	
事業者名	徳島県三好県土整備事務所

支承補修計画図(4)

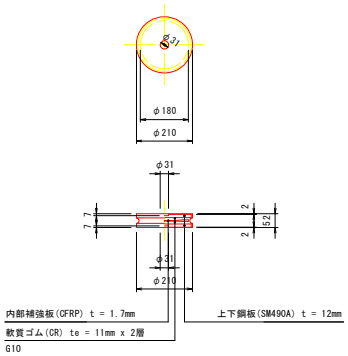
【支承取替工（A1橋台支承詳細図）】

固定支承（500kN） S=1:10

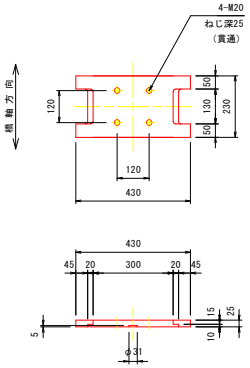


※（ ）の数値はSGN12(SGめっき+ナイロンコーティング　二重防錆仕様）被覆後の高さを示す。

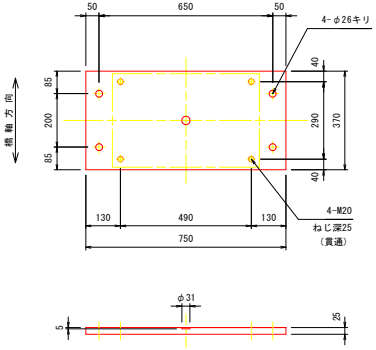
① 高面圧ゴム支承　CR+SM490A+CFRP



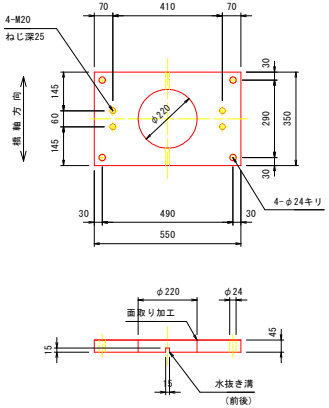
② 上　沓　SM490A



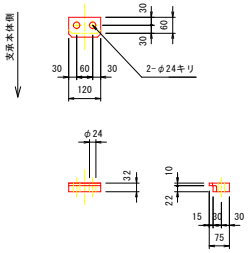
③ ベースプレート　SM490A



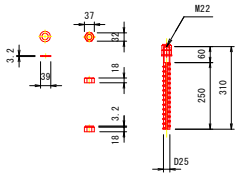
④ 固定枠プレート　SM490A



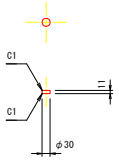
⑤ サイドブロック　SM490A



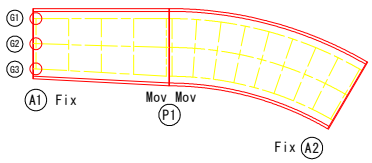
⑥ アンカーボルト　SD345



⑩ ボス　SM490A



位置図



設計条件

反力	最大反力		Rmax	470 kN
	最大反力 回転照査用		Rmax2	440 kN
	死荷重反力		Rd	210 kN
	照査荷重		Rl	160 kN
	最大水平力	橋軸方向	Rheq1	63 kN
		橋軸直角方向	Rheq2	32 kN
	上向きの地震力		Ru	22 kN
変位量	照査荷重時の変位量		δcl	0.73 mm
	回転変位量		δr	0.60 mm
	水平変位量	常時 橋軸方向	ΔLl	0 mm
		地震時 橋軸方向	ΔLe1	0 mm
		地震時 橋軸直角方向	ΔLe2	0 mm

材料表

部番	品名	材質	個数	質量(kg)	備考
1	高面圧ゴム支承	CR+SM490A+CFRP	1	7.4	CR Ge=1.0N/mm2
②	上沓	SM490A	1	16.2	
③	ベースプレート	SM490A	1	53.8	
④	固定枠プレート	SM490A	1	53.5	
⑤	サイドブロック	SM490A	2	3.4	
⑥	アンカーボルト	SD345	4	4.9	
7	六角ボルト	------	4	0.9	座金(22H)付
8	六角ボルト	------	4	1.0	座金(22H)付
9	六角ボルト	------	4	1.3	座金(22H)付
⑩	ボス	SM490A	2	0.1	
全質量 (kg)				142.5	

注)1. ◎印はST-SGN12(SGめっき+ナイロンコーティング　二重防錆)仕様とする。
注)2. □印はMEL-N12仕様とする。
注)3. ○印はST-SG仕様とする。
注)4. 部材番号9 のセットボルト長は取合い部材厚を確認後に決定すること。
　　重量は、L=100mmにて考慮している。
注)5. 高面圧ゴム支承の質量は参考質量とする
注)6. 必要に応じて吊り用のねじ孔を設けてもよい。

⑦ 六角ボルト　M20x55　強度区分 10.9
　平座金(22H)　20x37x3.2

⑧ 六角ボルト　M20x70　強度区分 10.9
　平座金(22H)　20x37x3.2

⑨ 六角ボルト　M20xL　強度区分 10.9
　平座金又はテーパー座金付

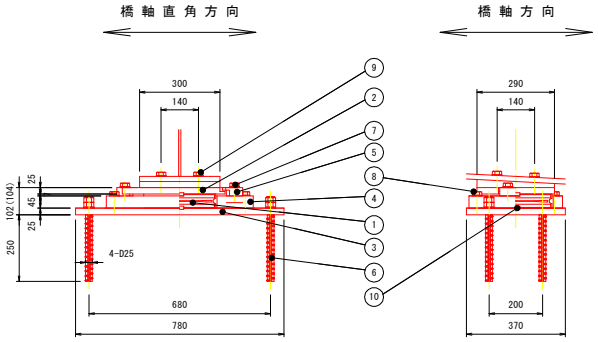
実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	支承補修計画図(4) 【支承取替工（A1橋台支承詳細図）】		
縮尺	1:10	図面番号	5 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

支承補修計画図(5)

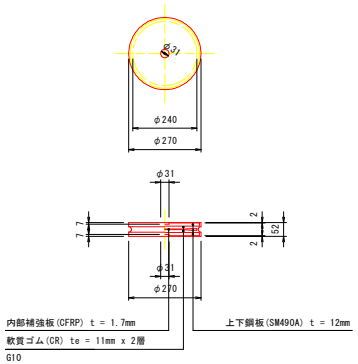
【支承取替工 (A2橋台支承詳細図G1・G2)】

固定支承 (1000kN) S=1:10

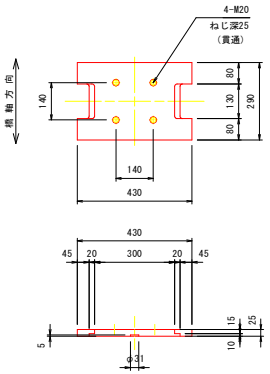


※( )の数値はSGN12(SGめっき+ナイロンコーティング 二重防錆仕様)被覆後の高さを示す。

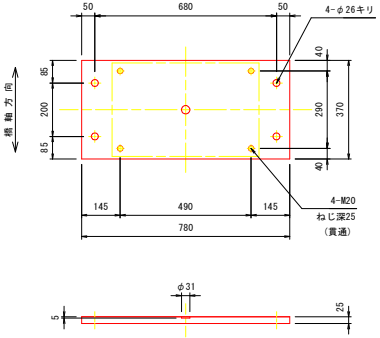
① 高面圧ゴム支承 CR+SM490A+CFRP



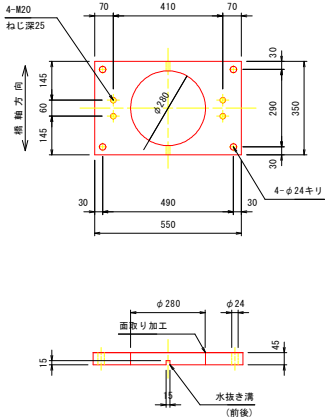
② 上 沓 SM490A



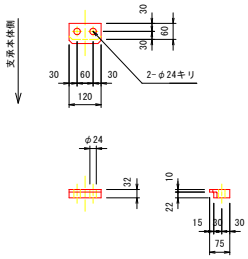
③ ベースプレート SM490A



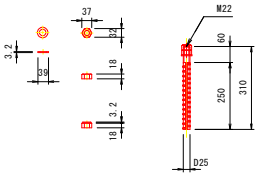
④ 固定枠プレート SM490A



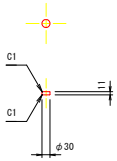
⑤ サイドブロック SM490A



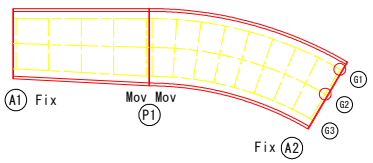
⑥ アンカーボルト SD345



⑩ ボス SM490A



位置図



設計条件

反力	最大反力		Rmax	1000 kN
	最大反力 回転照査用		Rmax2	580 kN
	死荷重反力		Rd	540 kN
	照査荷重		Rl	230 kN
	最大水平力	橋軸方向	Rheq1	109 kN
		橋軸直角方向	Rheq2	55 kN
	上向きの地震力		Ru	57 kN
変位量	照査荷重時の変位量		δcl	0.45 mm
	回転変位量		δr	0.80 mm
	水平変位量	常時 橋軸方向	ΔLl	0 mm
		地震時 橋軸方向	ΔLe1	0 mm
		地震時 橋軸直角方向	ΔLe2	0 mm

材料表

部番	品名	材質	個数	質量(kg)	備考
1	高面圧ゴム支承	CR+SM490A+CFRP	1	12.5	CR Ge=1.0N/mm2
②	上沓	SM490A	1	21.3	
③	ベースプレート	SM490A	1	55.9	
④	固定枠プレート	SM490A	1	45.2	
⑤	サイドブロック	SM490A	2	3.4	
⑥	アンカーボルト	SD345	4	4.9	
7	六角ボルト	------	4	0.9	座金(22H)付
8	六角ボルト	------	4	1.0	座金(22H)付
9	六角ボルト	------	4	1.3	座金(22H)付
⑩	ボス	SM490A	2	0.1	
全質量 (kg)				146.5	

注)1. ◎印はST-SGN12(SGめっき+ナイロンコーティング 二重防錆)仕様とする。
注)2. □印はMEL-N12仕様とする。
注)3. ○印はST-SG仕様とする。
注)4. 部材番号9 のセットボルト長は取合い部材厚を確認後に決定すること。
重量は、L=100mmにて考慮している。
注)5. 高面圧ゴム支承の質量は参考質量とする
注)6. 必要に応じて吊り用のねじ孔を設けてもよい。

⑦ 六角ボルト M20x55 強度区分 10.9
平座金(22H) 20x37x3.2

⑧ 六角ボルト M20x70 強度区分 10.9
平座金(22H) 20x37x3.2

⑨ 六角ボルト M20xL 強度区分 10.9
平座金又はテーパー座金付

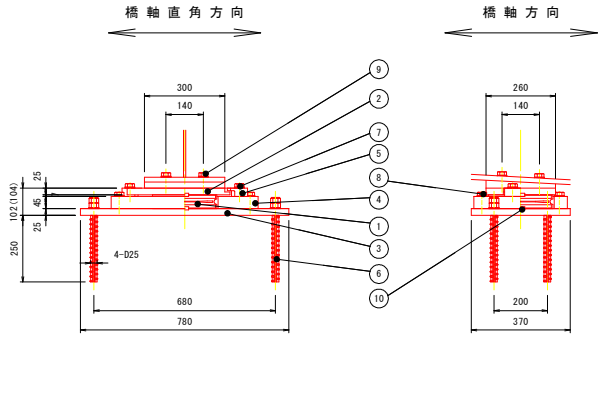
実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事
路線名等	(主)観音寺池田線
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)
図面名	支承補修計画図(5) 【支承取替工 (A2橋台支承詳細図G1・G2)】
縮尺	1:10
図面番号	6 / 13
会社名	
事業者名	徳島県三好県土整備事務所

支承補修計画図(6)

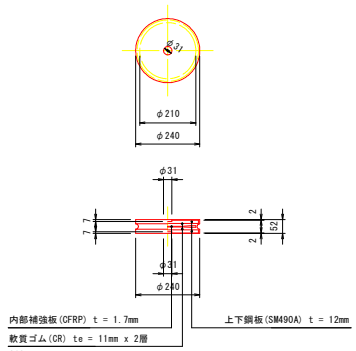
【支承取替工（A2橋台支承詳細図G3）】

固定支承（750kN） S=1:10

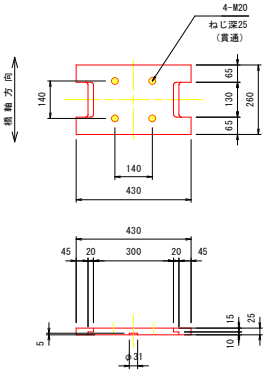


※（ ）の数値はSGN12(SGめっき+ナイロンコーティング　二重防錆仕様）被覆後の高さを示す。

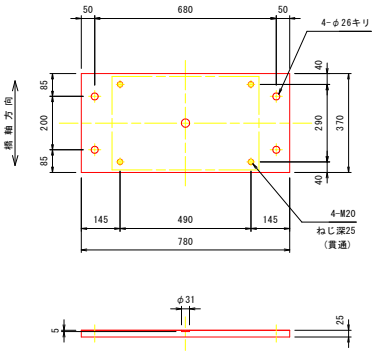
① 高面圧ゴム支承　CR+SM490A+CFRP



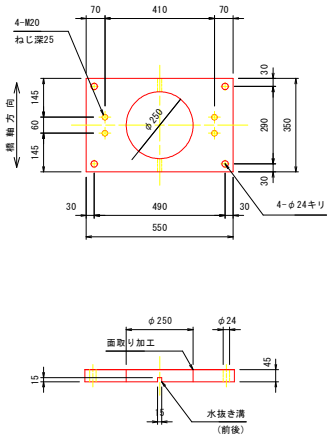
② 上　沓　SM490A



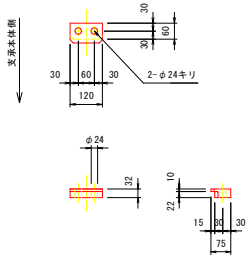
③ ベースプレート　SM490A



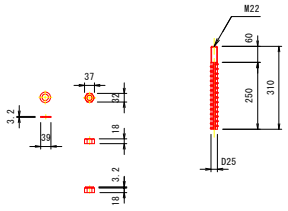
④ 固定枠プレート SM490A



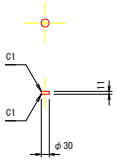
⑤ サイドブロック SM490A



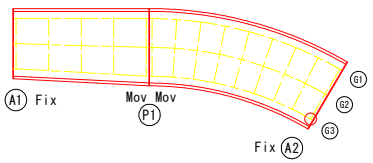
⑥ アンカーボルト SD345



⑩ ボス SM490A



位置図



設計条件

反力	最大反力		Rmax	680 kN
	最大反力 回転照査用		Rmax2	440 kN
	死荷重反力		Rd	540 kN
	照査荷重		Rl	145 kN
	最大水平力	橋軸方向	Rheq1	109 kN
		橋軸直角方向	Rheq2	55 kN
	上向きの地震力		Ru	57 kN
変位量	照査荷重時の変位量		δcl	0.41 mm
	回転変位量		δr	0.70 mm
	水平変位量	常時 橋軸方向	ΔLl	0 mm
		地震時 橋軸方向	ΔLe1	0 mm
		地震時 橋軸直角方向	ΔLe2	0 mm

材料表

部番	品名	材質	個数	質量(kg)	備考
1	高面圧ゴム支承	CR+SM490A+CFRP	1	9.8	CR Ge=1.0N/mm2
②	上沓	SM490A	1	18.8	
③	ベースプレート	SM490A	1	55.9	
④	固定枠プレート	SM490A	1	49.6	
⑤	サイドブロック	SM490A	2	3.4	
⑥	アンカーボルト	SD345	4	4.9	
7	六角ボルト	------	4	0.9	座金(22H)付
8	六角ボルト	------	4	1.0	座金(22H)付
9	六角ボルト	------	4	1.3	座金(22H)付
⑩	ボス	SM490A	2	0.1	
全質量 (kg)				145.7	

注）1．◎印はST-SGN12(SGめっき+ナイロンコーティング　二重防錆)仕様とする。
注）2．□印はMEL-N12仕様とする。
注）3．○印はST-SG仕様とする。
注）4．部材番号9 のセットボルト長は取合い部材厚を確認後に決定すること。
　　重量は、L=100mmにて考慮している。
注）5．高面圧ゴム支承の質量は参考質量とする
注）6．必要に応じて吊り用のねじ孔を設けてもよい。

7	六角ボルト	M20x55	強度区分 10.9
		平座金(22H)	20x37x3.2
8	六角ボルト	M20x70	強度区分 10.9
		平座金(22H)	20x37x3.2
9	六角ボルト	M20xL	強度区分 10.9
		平座金又はテーパー座金付	

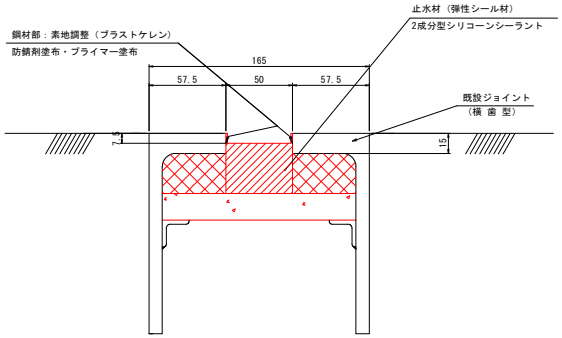
実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	支承補修計画図(6) 【支承取替工 (A2橋台支承詳細図G3) 】		
縮尺	1:10	図面番号	7 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

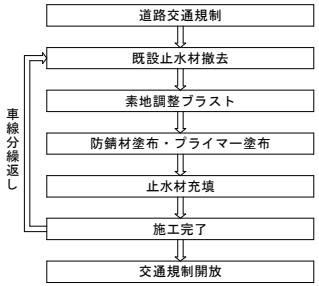
伸縮装置補修計画図

伸縮装置止水材取替工

断面図 S=1:2



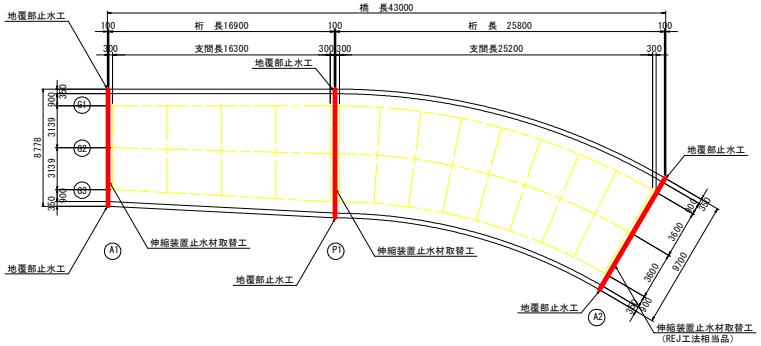
止水材取替工法　施工手順



【数量表】

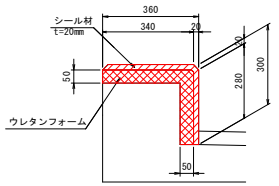
名称	規格	単位	1	2	3	合計
			A1	P1	A2	
伸縮装置止水工	延長	m	8.078	9.000	9.000	26.08
シール材		L	19.0	21.1	21.1	61.2
		set	17	18	18	53
プライマー		g	34.9	38.9	38.9	112.7
防錆剤		ml	439.1	489.2	489.2	1417.6
		缶	2	2	2	6

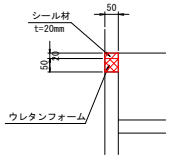
配 置 図



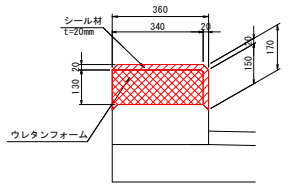
地覆部止水工 S=1:10

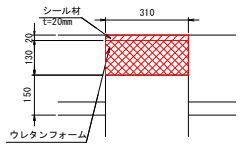
A1・A2橋台部





P1橋脚部





【数量表】

名称	規格	単位	1	2	3	合計
			A1	P1	A2	
地覆部止水工	延長	m	1.320	1.060	1.320	3.7
シール材	---	L	1.7	8.3	1.7	11.6
バックアップ材	---	L	3.4	15.1	3.4	21.9

注記）
1. 参考図は「横歯型」であるが、施工の際には再度現地確認の上、「横歯型」と「縦歯型」のどちらを適用するか検討すること。
2. 既設伸縮装置の型式が不明であるうえ、施工時期によっても必要充填量が変動することが考えられる。設計段階では、ST-60(STジョイント/ショーボンド建設）を想定した充填量を計上しているが、現地状況に応じて充填量を調節すること。
3. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

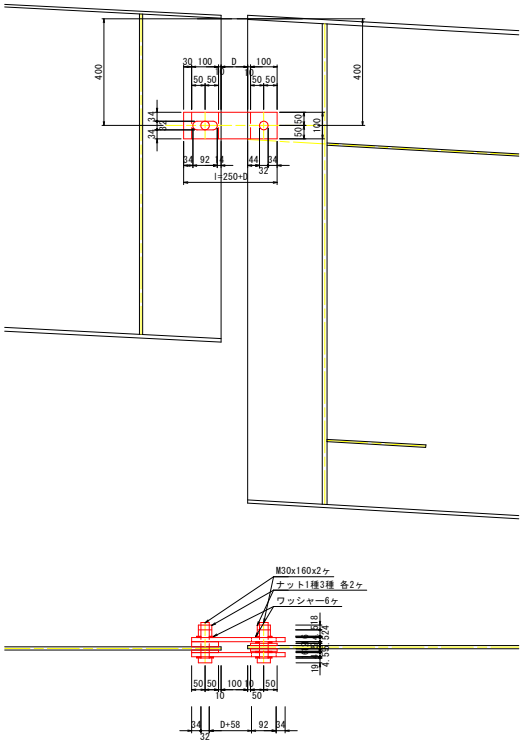
実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	伸縮装置補修計画図 【伸縮装置止水材取替工・地覆部止水工】		
縮尺	図示	図面番号	8 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

落橋防止システム補修工(1)

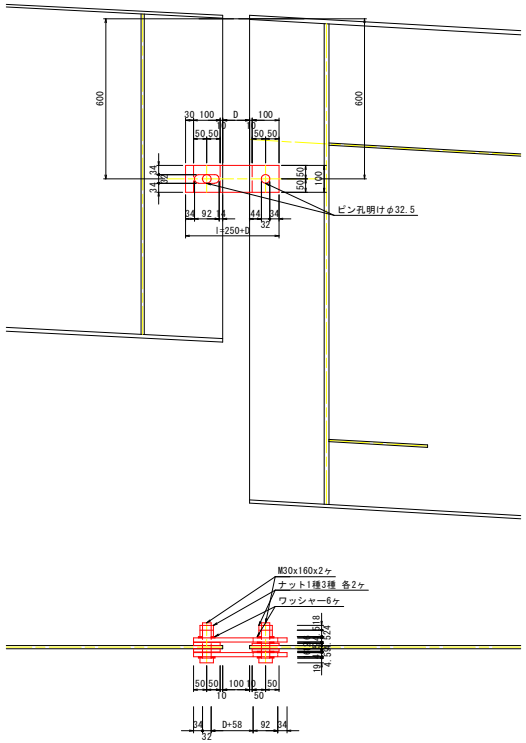
【桁連結板取替工】　S=1:10

〈既設桁連結板撤去時〉



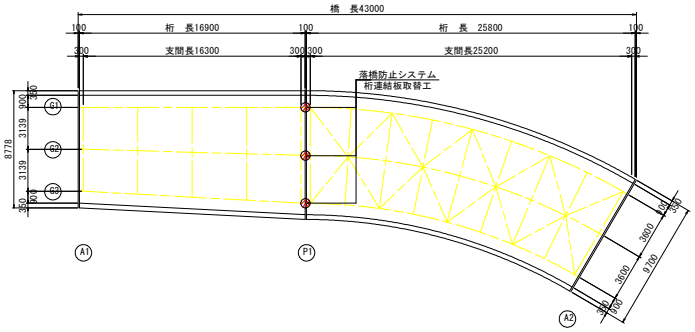
(既設桁連結板 1箇所当り撤去数量 撤去数=3)
2-FB Lx100x16
1-FB 100x100x19
3-FB 100x100x9
2-B.N M30x160
6-Washar M30

〈新設桁連結板設置時〉



(新設桁連結板 1箇所当り材料 設置数=3)
2-FB Lx100x16
2-FB 100x100x12
2-FB 100x100x9
2-B.N M30x135
6-Washar M30

配 置 図



	D	L	設置個所数
G1主桁	58	308	1
G2主桁	93	343	1
G3主桁	135	385	1

注記)
1. 取付箇所は、撤去後の主桁の損傷状況等を考慮し、適宜変更すること。ただし、変更する場合でも全主桁において高さを統一すること。
2. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

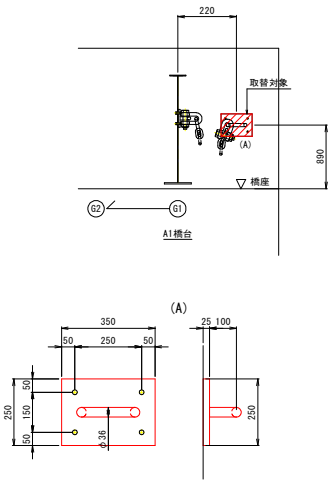
実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	落橋防止システム補修工(1) 【桁連結板取替工】		
縮尺	1:10	図面番号	9 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

落橋防止システム補修工(2)

【緩衝チェーン・緩衝ゴム補修工】

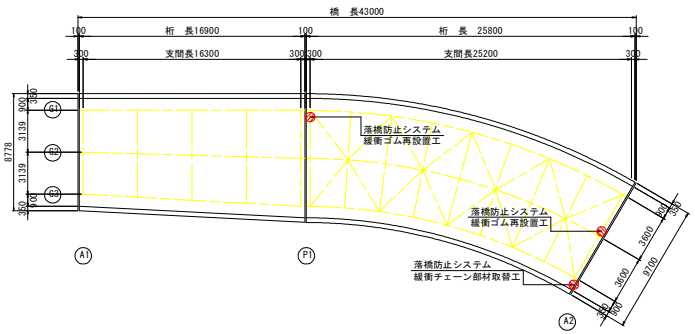
落橋防止システム 緩衝チェーン部材取替工 S=1:10



(撤去落橋防止システム緩衝チェーン部材 1箇所当り 撤去数=1)
1-Base PL 350x25x250
4-NUT φ18

(新設落橋防止システム緩衝チェーン部材 1箇所当り 製作数=1)
1-Base PL 350x25x250
4-NUT φ18

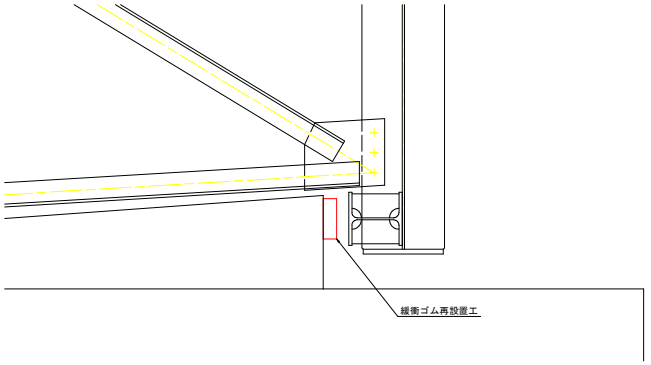
配 置 図



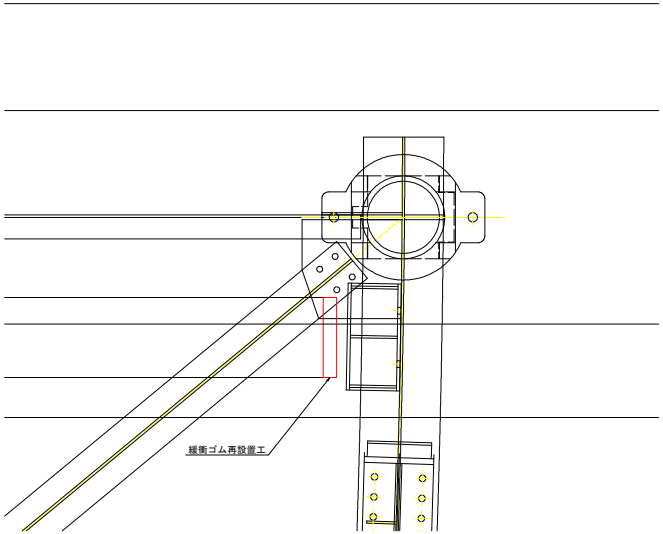
落橋防止システム 緩衝ゴム再設置工

全体図 S=1:10

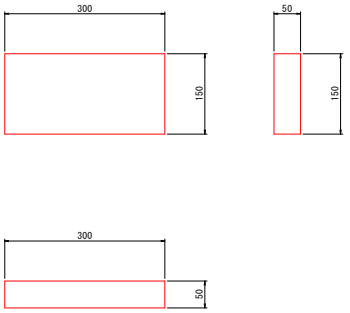
正面図



平面図



緩衝ゴム詳細 S=1:5



(新設落橋防止システム緩衝ゴム 1箇所当り 製作数=2)
1-150x50x300 (クロロプレンゴム)

※再利用可能な場合は再利用とする。

注記)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	落橋防止システム補修工(2) 【緩衝チェーン・緩衝ゴム補修工】		
縮尺	図示	図面番号	10 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

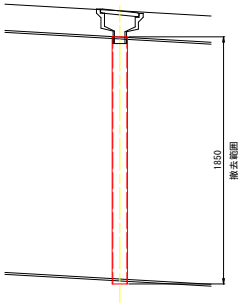
排水装置補修工(1)

【排水管取替工・排水目皿取替工】

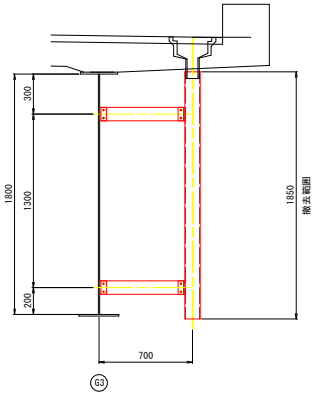
排水管取替工（D2）S=1:20

＜既設排水管撤去時＞

橋軸方向



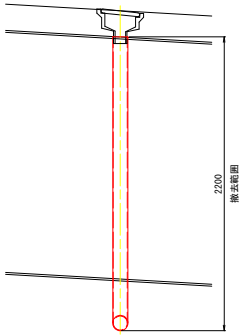
直角方向



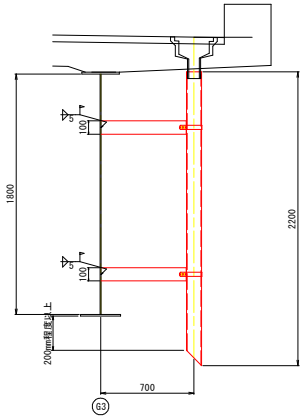
（既設排水管 1箇所当り撤去材料 撤去数=1）
2-FB 100x9x620
4-FB 100x9x50
1-SGP 100Ax1850

＜新設排水管設置時＞

橋軸方向

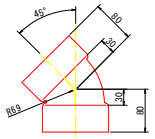


直角方向

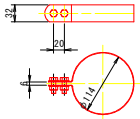


（新設排水管 1箇所当り材料 施工数=1）
2-FB 100x6x636
1-VP100x2200

VP100用45° エルボ S=1:5



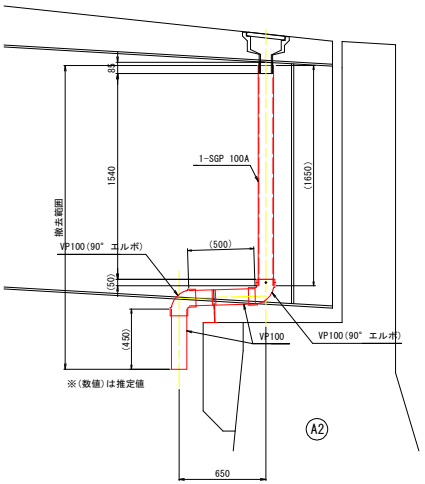
VP100用立管バンド S=1:5



排水管取替工（D3）S=1:20

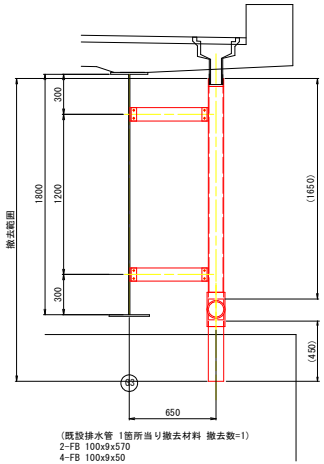
＜既設排水管撤去時＞

橋軸方向



※(数値)は推定値

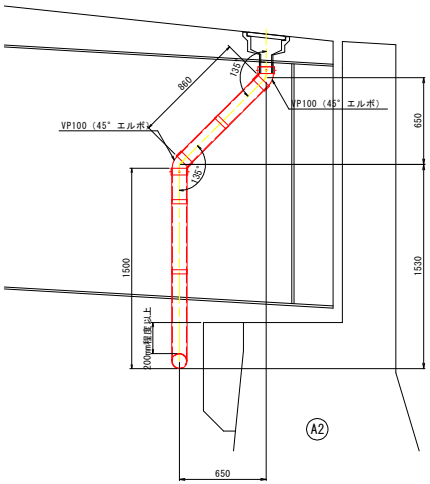
直角方向



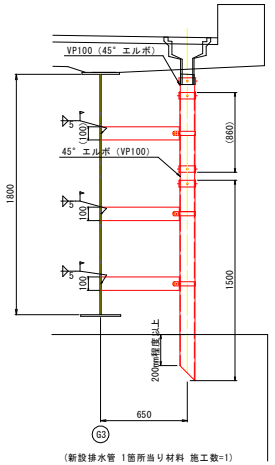
（既設排水管 1箇所当り撤去材料 撤去数=1）
2-FB 100x9x570
4-FB 100x9x50
1-SGP 100Ax1650
1-VP100x500
1-VP100x450
2-VP100(90° エルボ)

＜新設排水管設置時＞

橋軸方向



直角方向



（新設排水管 1箇所当り材料 施工数=1）
3-FB 100x6x586
1-VP100x1500
1-VP100x860
2-45° エルボ(VP100)

※(数値)は排水管方向の値

注記）
1. 新設排水管先端は、D2は下フランジ下面より200mm程度以上、D3は標産より200mm程度以上離れた位置となるようにすること。
2. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	排水装置補修計画図(1) 【排水管取替工・排水目皿取替工】		
縮尺	図示	図面番号	11 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

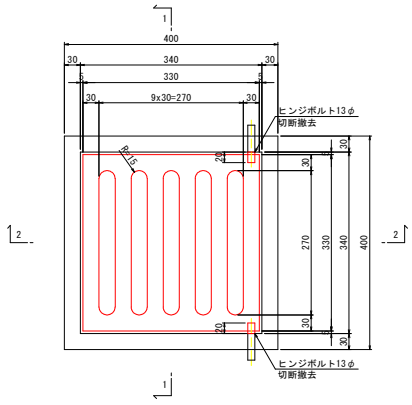
排水装置補修工(2)

【排水管取替工・排水目皿取替工】

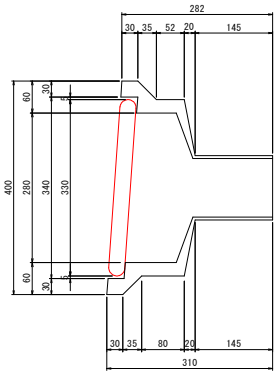
排水目皿取替工 (D3) S=1:5

＜既設排水管撤去時＞

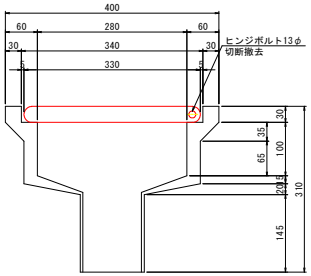
平面図



1-1
(橋軸方向)



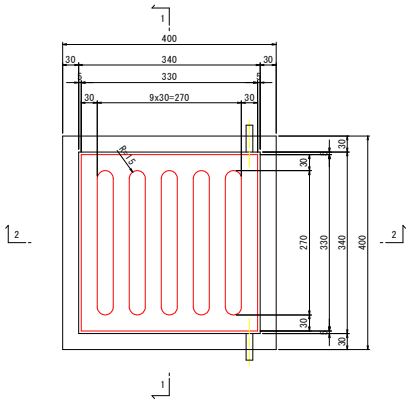
2-2
(直角方向)



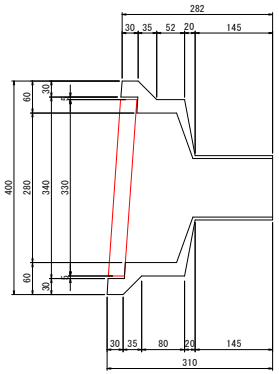
(既設排水目皿 1箇所当り撤去材料 撤去数=1)
1-排水目皿 330x30x330 (FC15)
2-ヒンジボルト φ13x20

＜新設排水管設置時＞

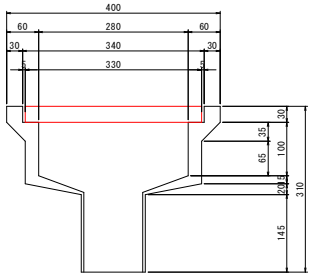
平面図



1-1
(橋軸方向)

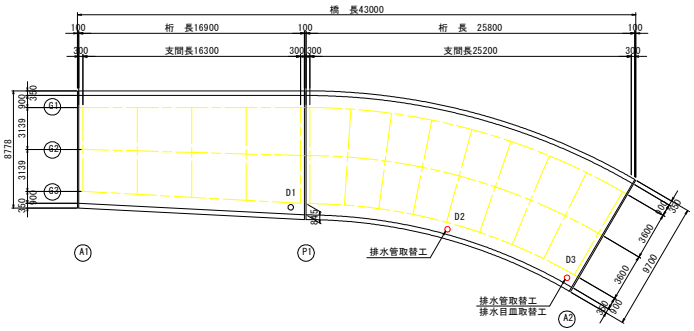


2-2
(直角方向)



(新設排水目皿 1箇所当り材料 施工数=1)
1-排水目皿 330x30x330 (FC250)

配 置 図



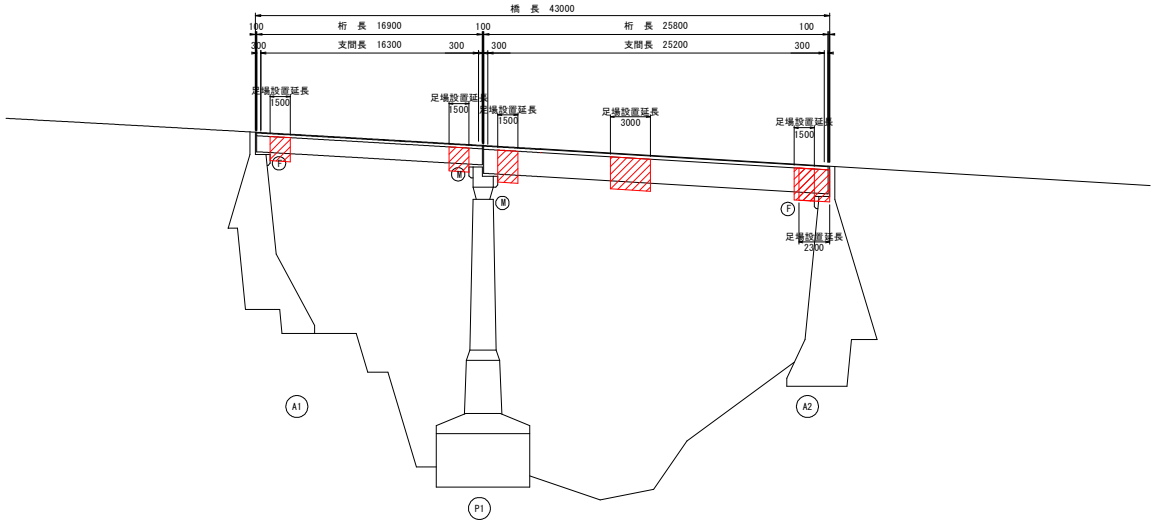
注記)
1. 現況はヒンジ構造であるが、ヒンジの再利用は不可能であるため、既設ヒンジは切断し、新設目皿は落込構造とする。
2. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	排水装置補修計画図(2) 【排水管取替工・排水目皿取替工】		
縮尺	1:5	図面番号	12 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		

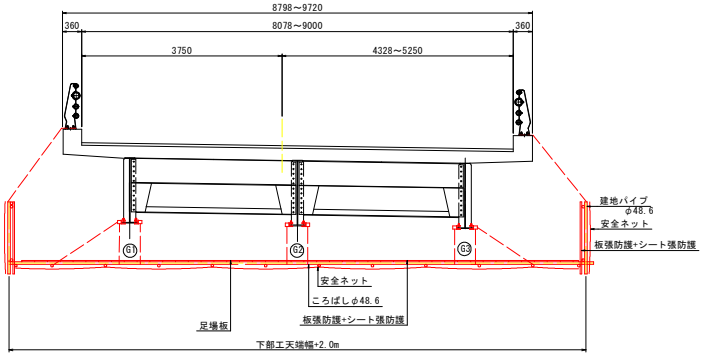
施工計画図（参考）

側　面　図 S=1:200

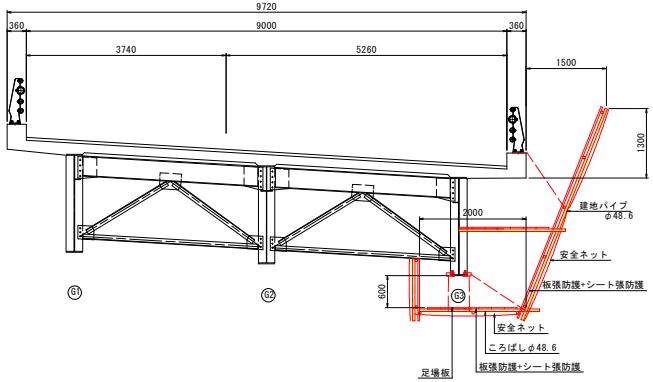


標準断面図 S=1:50

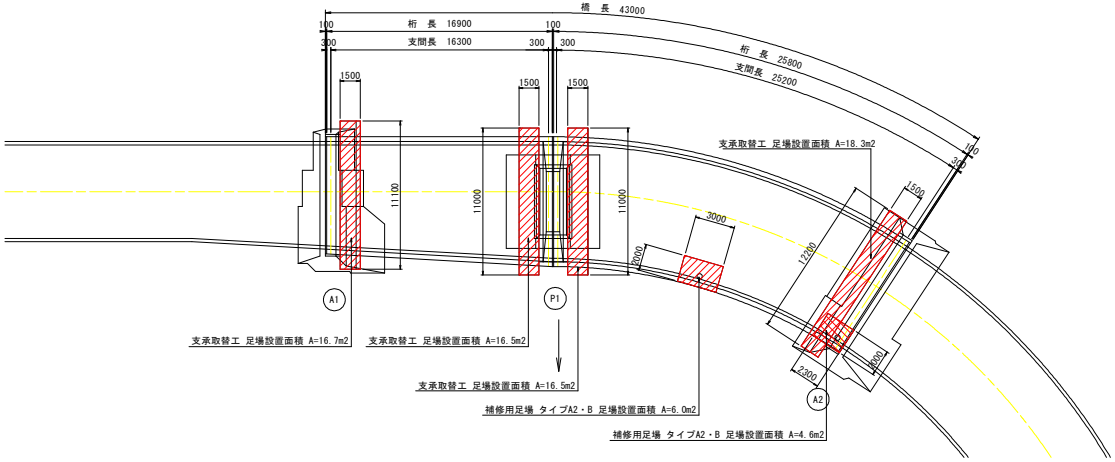
支承取替工



補修用足場　タイプA2・B



平　面　図 S=1:200



足場工数量表

足場タイプ	単位	計算式	数 量	備考
支承取替工	m2	16.7+16.5x2+16.3 =68.0m2	68.0	
補修用足場 タイプA2	m2	6.0+4.6 =10.6m2	10.6	
補修用足場 タイプB	m2	6.0+4.6 =10.6m2	10.6	

注記
1. 施工時には河川の流水に留意し、必要に応じて安全対策を実施すること。

実施設計図面

工事名	R8三土 観音寺池田線(蔵谷橋) 三・池田州津 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)観音寺池田線		
工事箇所	三好市池田町州津(蔵谷橋)		
図面名	施工計画図（参考）		
縮尺	図示	図面番号	13 / 13
会社名			
事業者名	徳島県三好県土整備事務所		